

文京区

BUNKYO GENDER EQUALITY CENTER

男女平等センターだより PARTNER

2018

No.

90

Topics

文京区男女平等センターまつり

Contents

- 【特集1】男女平等どこまで アンケート調査 ————— 2,3,4,5
- 【特集2】第33回男女平等センターまつり ————— 6,7
- プラスワンセミナー ■「男性のセカンドライフのさがし方」—— 8
- 「いまどきの若者たち」—— 8
- 区政を知る懇談会／裁判ウォッチング ————— 9
- UN Women（国連女性機関）日本事務所による出前講座 他 ——— 10,11
- 日本女性会議／今後の予定 ————— 12

2018年12月25日発行

発行／文京区女性団体連絡会 会長 岡田伴子
〒113-0033 文京区本郷4丁目8番3号
TEL.03-3814-6159 FAX.03-5689-4534

文京区男女平等センターは
文京区女性団体連絡会（文女連）が
指定管理者として管理・運営しています。

男女平等どこまで アンケート調査

～第33回文京区男女平等センターまつりより～

今年8月、「男女平等 どこまで」をテーマに、アンケート調査を行いました。



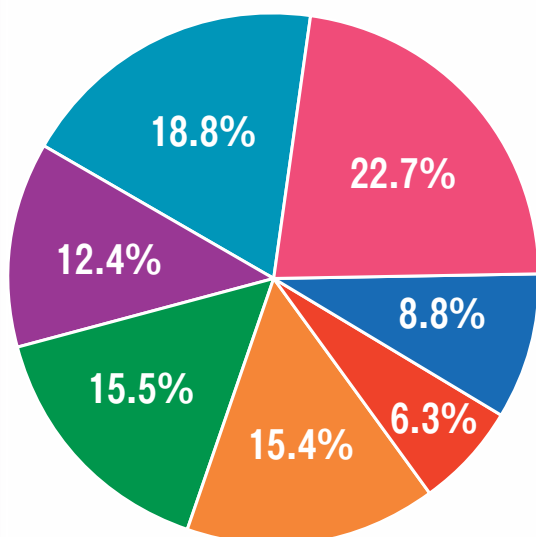
「完全に不平等」を0、「完全に平等」を10とし、

4つの項目で「現在の**日本の男女平等はどのくらい**だと感じていますか？」と聞き、その結果を「平等感ボリューム」というビジュアルで表現しました。

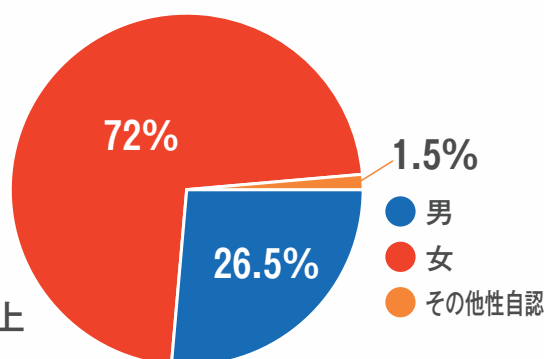
結果、2018年の現在でも、平等感覚は半分以下のまま。

本当の平等（国連がめざす持続可能な開発目標・SDGsジェンダー平等社会の実現）が訪れる日は来るのか、それを妨げているものは何なのかについて、アンケート結果から考察しています。

回答数 833件
うち有効回答数 810件



● 10代
● 20代
● 30代
● 40代
● 50代
● 60代
● 70代以上



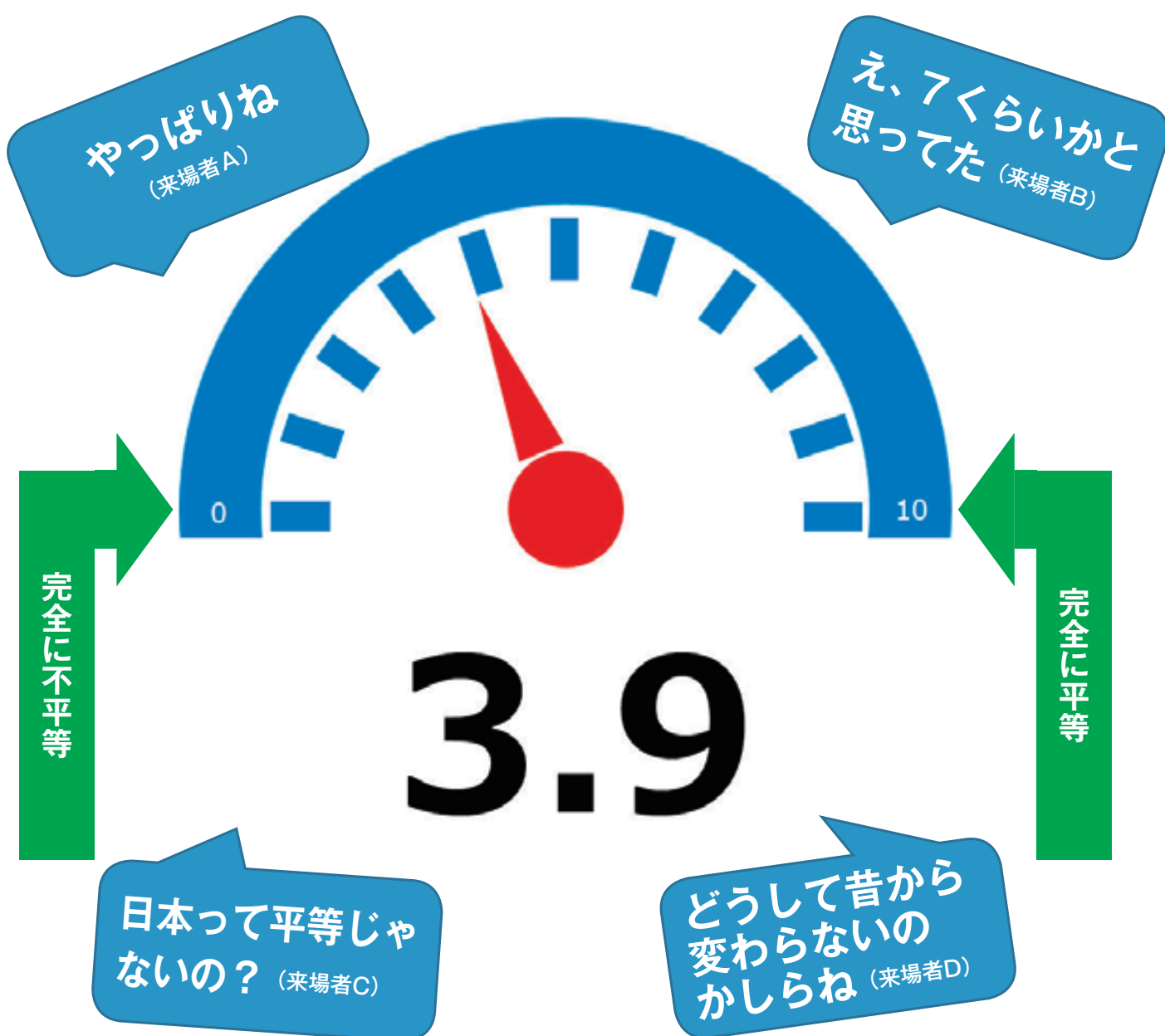
● 男
● 女
● その他性自認

アンケート調査期間 2018年8月10日～2018年9月15日

回答方法 アンケート用紙及びネット利用

810人のアンケートから導き出された現在の平等感

総合ボリューム



「男女雇用機会均等法」制定から33年、「男女共同参画基本法」制定から19年たった2018年の現在でも、平等感覚は半分以下のままでした。

町会等 地域活動における平等感ボリューム



4.4

文京区の現実 ※H28年 文京区調べ

町会・自治会数	155
うち、男性会長	149
女性会長	6 (4%)

今回聞いた「就職」「労働賃金」「政治」「町会活動」の4項目の中では、最も高い平等感を抱いていたといえる、町会活動。

防災訓練では、男性が班長で指揮をとり、**女性は得意不得意に関わらず、ほぼ問答無用で炊き出し**に回されます。その結果、実際の被災地では、女性ならではの困りごとに対処できなかったり、報道されない暴行事件なども多数起きているのが現状です。

私たちの平等感覚は現実と、そもそもずれているのではないのでしょうか？

調査結果をメイン展示として掲示し、 多くの方から貴重なご意見が寄せられました

- 憲法14条で法の下での平等が定められて70年が経過し、法制度も整備されてきている。でも、男女平等の世になっていない。何故なんだろう。そこに切り込んだパネル展だと思います。人の意識は簡単には変わらないが、何もしなければいつまでも男女平等は実現しないと思います。こうした啓発の大切さを改めて感じました。(男性・年齢無記入)
- パネルを見る前と後で、自分の中に無意識の差別意識があるかもしれないことを感じました。女だからと思わずに歩んでいきたいと思います。(40代)
- メーターで示すというやり方がとても分かり易い。また地域活動における平等感がとても高いのに驚きました。職場での平等については一応推進されている(マスコミでも取り上げられている)ようですが、“地域”は注目が少ないように思います。そこがはっきりわかって興味深い調査結果でした。(40代)
- 女性自身の中でも女性を下に見るようなところがあります。その意識を変えていかななくては。(70代)
- 多くの人が本当は男女不平等だと感じていると分かって心強く思った。賃金の不平等感で、10代のみ平等と信じている。期待に応えられる社会に変わらなくては。(50代)
- 文京区の男女平等がよくわかりました。日本中に広げてほしいと思いました。(60代)
- 区別と差別の観点を大切にして、両性が互いの特性などを尊重しながら共に生きていくことが理想であると、改めて実感した。(40代)
- とても勉強になる展示だった。ふだんの何気ない意識がどのようにひびいているのかよくわかりました。(40代)
- 想像している通りの調査結果だった。(30代)
- ボリュームで、数値を示しているところが分かりやすかった。「防災訓練で女性は炊出しにまわる」など当たり前でやらされたりするところもなるほどと思った。男性の意見で希望も見え始めているので、もっと、男性も女性も生きやすい世の中になるといいなと思う。(40代)
- 各地で、同じ設問でやってみてはどうでしょう。地域の特徴が見えそうです。(70代)
- 男女平等という言葉をあえて掲げなくても、人々が自然に当たり前に「男女平等」という考え方・行動がとれるようになるまで、ずっと行動を続けてください。(40代)
- 子どものころから40代まで地方に住んでいたのに、「総合ボリューム3.9」の裏側に書いてあるようなことは、当たり前に行われているように思います。親もそれが当たり前、会社の上司も当たり前。こうした今の時代だからこそ、意識が改められて男女平等が進んでいくのだと感じました。(50代)
- 「日本語の不思議な使い方」が面白い。(70代)
- 町会の問題を取り上げたのはよかったです。まとめの、無意識のささやかな差別意識というのはどうかな？ ジェンダーギャップ指数の内容をもっと調べたら、その内容は違うと思います。無意識の差別意識の指摘も大事です。(80代)
- 展示内容は分かりやすかった。来訪時、まとめたリーフレットがなかったので、会報誌または広報誌に載せて頂きたい。(70代)



※調査結果をまとめたものを、2019年5月に冊子として作成する予定です。



講演会「6Kライフのすすめ」渥美由喜さん



ワークショップ

第33回男女平等

～きのう きょう あしたへ～



オペレッタ

平成30年度の男女平等センターまつりが、10月27日(土)・28日(日)に開催されました。登録団体の活動発表に加え、初日は「まつり講演会」、2日目は「まつりシネマ」にも多くの来場者がありました。



バザー会場



ワークショップ



お茶席

団体活動発表

A 研修室





© Pathe Productions Limited, Channel Four Television Corporation and The British Film Institute 2015. All rights reserved.



応援に来てくれたBUNレンジャーとピエロ



絵本の読み聞かせ

センターまつり

次の世代へつなごう！ 男女平等

若い世代にもぜひセンターに足をはこんで
いただきたいと昨年から始めた、ベビーマッ
サージや英語リトミック、地元の学生による
オペレッタ、毎年好評を得ているカレーやコ
ーヒーコーナー等、大盛況だったまつりの一
部をご紹介します。



ワークショップ



カレーコーナー



パパと遊ぼう 英語リトミック



コーヒーコーナー



パネル展示

コーラスあり、ダンスありで、みなさま楽しんでいました。



プラスワンセミナーⅡ

男性のセカンドライフのさがし方



●日時：平成30年7月13日(金) 午後6時30分～8時30分

●講師：小林 良二さんさん（東京都立大学名誉教授）

7月13日に、東京都立大学名誉教授の小林良二さんをファシリテーターにお迎えし、また東明

さん（シルバー人材センター会員）、田邊陽二さん（NPO法人カーレットジャパン協会理事長）、難波洋一さん（日本スベラ協会代表）のお三方をゲストにお招きし、男性のセカンドライフのさがし方について、とても興味深いお話をうかがいました。

ご来場いただいた受講生の中には、近々に定年を迎える方や、定年はまだ先だが妻に言われて聞きにいらした方などが多くいらっしゃり、活発な質問やご意見が交わされ、セカンドライフについての課題やヒントが多くちりばめられた、意義深い時間となりました。当日出た内容から、みなさまへのヒントになりそうな話題をまとめてみます。

- セカンドライフは、これまでの仕事人生とは「全く違う」コミュニティに関わっていく、ということ。
- 男社会から女性とも多くかかわる社会へシフトしていくためには、男女の違いと、女性の持つ能力の高さについて、偏見なく認識する必要がある。
- 女性のコミュニティは「共感する・話を聞く」ということが重要なコツ。
- かつての肩書きや役職というプライドにこだわり続けると、豊かなセカンドライフを見つけにくいので注意。
- ありがたと言われる喜びや、これまでとは違う、新しい人に出会う楽しさに目を向けてみる。
- セカンドライフへのシフトチェンジにちょうど良いのは、自由になる少しのお金があること。
- お金を稼ぐためではないが、「ありがたいことに少しお金がもらえる」ような活動に関わるのも楽しい。

人生100年時代。生き生きと老いていける工夫が必要時代ですね。
(大内悦子)

プラスワンセミナーⅢ

いまどきの若者たち

●日時：平成30年9月5日(水) 午後6時30分～8時

●講師：原田 曜平さん（博報堂ブランドデザイン若者研究所所長）

さまざまなメディアに登場されていらっしゃる、博報堂若者研究所所長の原田曜平さんから、独自に構築された若者ネットワークから得た若者の実態について、ご講演をいただきました。

その中で、「今の男子高校生は、まず、小食で、細くて、お肌がツルツルで、ふる上がりに化粧水を使うのも、特別ではありません」と聞いたときには、まさに我が家の息子を思い浮かべました。講演を聞きにきていた息子は逆に、「男子が化粧水使ってるって言ったら、前の席の人が笑ったのをみて驚いた」と言いました。親子でも、世代間で常識のギャップがこんなにもあるのか、と改めて認識させられました。

また、「楽ごもる20代」とメディアで言われ、休日にも一度も外出しない20代男性が50%以上いるとのこと。70代男性の方がずっと活動的、という実態があるようです。とはいえ、「情報環境が違うので、たったひとりでじっとしているとは限らず、SNS（LINE）や「フェイスブック」などのソーシャルネットワークサービス）などで繋がって会話していたり、外の情報を集

めていたりするので、今までの常識で、ずっと引きこもっている、とは一概に言い切れません」とのこと。情報環境が人類に、特にバイリンガルならぬ、『ネットリンガル』であろう若者たちに、根本的な常識の違いが生まれてきているのだという認識を持たざるを得ませんでした。

番組制作の裏側のお話も興味深く、受講された方からも、多くの「とても面白かった」という声が聞かれた講演でした。
(大内悦子)





「財政」とは、わかりやすく言うと「お金のやりくり」のことです、と切り出されました。

皆様のご家庭の中での家計のやりくりと同様に区でも皆様に納めていただいた税金などを有効に活用して、必要性や優先度を考慮して「予算」を立てて計画的に「お金のやりくり」をしています。

「予算」って何？・「当初予算」と「補正予算」・「決算」とは？

●日時：平成30年8月1日(水) 午後1時30分～3時

●講師：新名 幸男さん（文京区財政課長）

区の会計について

平成30年度の予算の概要などについて歳入歳出の各区分ごとに、ていねいにわかりやすく説明をしてくださいました。

さらに詳しく知りたいかたは、区のホームページ（区政情報の予算）をご覧ください。

【参加された方の感想は……】

- ◆ 多岐にわたって大変すばらしい内容でした。ありがとうございました。
- ◆ 一般区民がこのようなわかりやすい内容で、区政がわかり大感激です。
- ◆ 10年も住んでいる文京区のことのがはじめてわかりとてもよい機会となりました。
- ◆ 予算を学べる講座なんて画期的、東大を抱える文京区は、文化的事業が多くよいと思います。
- ◆ これを機会に私も今まで素通りしてきた資料、本など新しい興味がわいた、すばらしい講義でした。

（吉野文江）



裁判ウォッチング

●日時：平成30年9月12日(水) 午後12時～

今年も行われた人権を考える裁判ウォッチングに参加しました。民事と刑事に分かれ、私は民事小額訴訟を傍聴しました。小額の民事上の紛争について紛争額に見合った時間と費用と労力で効果的に紛争解決を図ることができる様に、手紙を出来る限り簡易にして迅速な解決を可能にしたものでした。

その特徴としては、60万円以下の金銭トラブルに限り審判は原則1回で双方の言い分、証拠を調べただけで修了、直ちに判決が言い渡され証拠書類、証人はその場で調べられるものに限られます。

裁判所は、原告の言い分を認める場合でも、支払猶予の判決が出来る小額訴訟判決に不服があるときは、判決をした裁判所に異議を申し立てることが出来ますが、提訴や上告は出来ないそうです。

今回傍聴したケースの裁判では、当事者ではなく

代理人のみの出席で判決が下されるとのこと、その他数件の裁判も傍聴することができ、有意義な裁判ウォッチングでした。

以下に、参加者からの感想をご紹介します。（鈴木和子）

【参加者の感想】

- ◆ とても興味深かった。ドラマや映画の世界だけではない実際の裁判を傍聴して現実のものとなった。
- ◆ 貴重な傍聴の機会をいただきましてありがとうございました。
- ◆ 社会参加のいいきっかけをいただいたと思う。
- ◆ お酒で人生を狂わせてしまう恐ろしさを目の当たりにした。そこまでの事件を起こして断酒を考えないことに再発してしまう予感を感じました。



UN Women(国連女性機関) 日本事務所による出前講座

- 日時：平成30年11月17日(土) 午前10時30分～11時15分 ●会場：区立明化小学校
- 講師：齋藤 文栄さん(UN Women(国連女性機関)日本事務所パートナーシップ専門官)

文京シビックセンター1階にあるUN Women(国連女性機関)日本事務所が、地域貢献活動の一環として、区立小学校において国際理解に関する出前授業を行いました。小学生の頃から国連機関の話を聞くことで、国際的な感覚を養い、多様な視点で物事を考えることができる児童の育成を目指したもので、6年生を対象に行いました。

講座では齋藤さんが、ジェンダー平等についての基本的な理念や国連の仕組みを平易な言葉と図で説明した他、世界の女兒を取り巻く状況や日本における男女平等の進捗具合、無意識の男女のステレオタイプについて、児童とやり取りしながら講義しました。また、保護者席は立ち見が出るほどの盛況となり、齋藤さんによる家庭における性別役割分担等の話に大きくうなずいていました。齋藤さんは、「家族や友達と話して考えてほしい」と伝えました。

児童からは、日本のジェンダーギャップ指数が低いことが意外だった、男女差別をなくすために自分たちは何ができるのか考えたい、といった感想が寄せられました。



大学職員向け 性自認及び性的指向に関する対応セミナー

- 日時：平成30年11月15日(火) 午後2時30分～4時 ●会場：男女平等センター 研修室A
- 講師：屋成 和昭さん(株式会社アウト・ジャパン執行役員)、平山 裕三さん(株式会社はぐくむ)

大学職員向けに、SOGIに関する基礎知識と対応についてのセミナーを実施し、区内にキャンパスを持つ大学のうち10大学23人が参加しました。屋成さんがLGBTについて図を用いて説明したのちに事例を挙げ、参加者は、性が多様であることを実感していました。また、当事者による体験談として、学生時代に就職活動で悩んだ時の事例に加え、大学での困りごとや就職支援担当の大学職員にしてほしい対応等具体的な話が紹介されました。参加した大学職員からは、多様性に対応する体制や勉強が必要だ、配慮を心がけていきたいとの声が聞かれました。

*SOGIとは：Sexual OrientationとGender Identityの頭文字をとったもので、「性的指向」と「性自認」を意味しています。



自分を守る護身術と、もうハラハラしない! ハラスメント対策講座

- 日時：平成30年12月6日(木) 午後6時30分～8時30分 ●会場：男女平等センター 研修室A
- 講師：吉祥 眞佐緒さん(一般社団法人エープラス代表理事)、本富士警察署
- 後援：UN Women(国連女性機関)日本事務所

文京オレンジデーキャンペーンの一環として本富士警察署による誰でも取組める護身術の講習と、テレビや学校における講演で活躍するハラスメント対策専門家の吉祥眞佐緒さんによる身近なハラスメントの例と対策の講座を行い、家族連れや夫妻、10代から70代まで幅広い年齢の方が参加しました。吉祥さんはモラルハラスメントがDVの精神的暴力に当たることや、ハラスメントの要因についてユーモアを交えて話し、参加者は時に笑いながらも、今日からできること等をメモを取りながら聞いていました。

護身術講習は、本富士警察署からの講師が年齢や性別に応じてできる護身術や離脱術を指導し、参加者はペアになって、腕をつかまれたときの離脱方法等を実践形式で学びました。





文京オレンジデーキャンペーン

11月25日は、国連の定める「女性に対する暴力撤廃の国際デー」です。UN Women（国連女性機関）はこの日から12月10日（人権デー）までの16日間、世界中で女性や女兒に対する暴力のない明るい未来を象徴する色「オレンジ」に街中を染める呼び掛けを行いました。文京区もUN Women（国連女性機関）日本事務所と協力し、今年のテーマ「#私の声も聞いて（#HearMeToo）」を掲げて文京オレンジデーキャンペーンを行い、暴力撤廃を呼び掛けました。

文京区の啓発活動

啓発品の配布や啓発パネル展を行ったほか、区長や文京区女性団体連絡会等のメッセージ動画と、UN Women（国連女性機関）日本事務所によるミニフィルムを放映しました。また、シビックセンターの三角屋根をオレンジ色にライトアップしました。



犯罪被害者等相談会

文京オレンジデーをより充実した活動とするため、11月22日に事前行事として、区内警察四署（富坂、本富士、大塚、駒込）の協力により、相談会と、警視庁マスコットキャラクターのピーポくんも参加したキャンペーンを実施しました。

中央大学理工学部

構内での啓発品配布やポスター掲示等での周知・啓発、オレンジ色のイルミネーションのほか、春日通り沿いの掲示板などをオレンジ色に染めるご協力をいただきました。



拓殖大学

レンガ造りの本部棟のライトアップや構内での啓発品配布、シビックセンターでの啓発品配布にご協力いただきました。



その他、文京区女性団体連絡会を始め、区内の大学・団体など大勢の皆様にご賛同をいただきました。ご協力ありがとうございました。



世界人権宣言 70 周年記念 人権啓発映画会

- 日時：平成30年12月7日（金）〈昼の部〉午後1時30分～4時30分 〈夜の部〉午後6時30分～8時30分
- 講師：金貴粉さん（国立ハンセン病資料館学芸員）
- 会場：男女平等センター 研究室A

世界人権宣言70周年の人権週間行事として、『ふたたび～SWING ME AGAIN～』の上映会を行いました。ハンセン病のために家族やジャズバンドの仲間から50年間引き離されていた男性が主人公のロードムービーで、病気に対する差別や偏見といった重いテーマを扱いながらも、家族愛や熱い友情、音楽の素晴らしさによって観る人の心に訴えかける作品でした。昼の部の上映前には、国立ハンセン病資料館学芸員による講演会を開催し、ハンセン病患者の思いや国の隔離政策の歴史などを伺いました。

12月3日（月）と4日（火）には文京シビックセンター区民ひろばにおいて人権啓発パネル展を行い、「世界人権宣言」採択60周年記念の際に日本の著名な漫画家が描いた「人権マンガパネル」や、国立ハンセン病資料館提供の多摩全生園写真パネル、世界人権宣言の各条文をイラストと公益社団法人アムネスティ・インターナショナル日本及び詩人の谷川俊太郎さんによる訳文で紹介したポスターを掲示して、人権の大切さを訴えました。





ただえようこれまでの道 彩ろう未知なる明日

日本女性会議
2018 in 金沢に出席してきました。

日時：平成30年10月12日(金)・13日(土)
場所：金沢歌劇座 他



10月12日(金)

開会アトラクション (金沢素囃子)
開会式、基調報告
分科会
交流会



10月13日(土)

記念講演
「能の道を歩む ～私の生きがい～」
松田 若子 (宝生流能楽師)
記念シンポジウム
「これからの生き方・働き方のカタチ
～「結婚」の選択肢が不人気なわけ～」
おおたわ 史絵 (総合内科専門医・作家)
小関 誠 (AIG損保シニアアドバイザー)
塩谷 マクスーダ (公立小松大学准教授)
鈴木 規秀 (鈴木建設株式会社代表取締役社長)

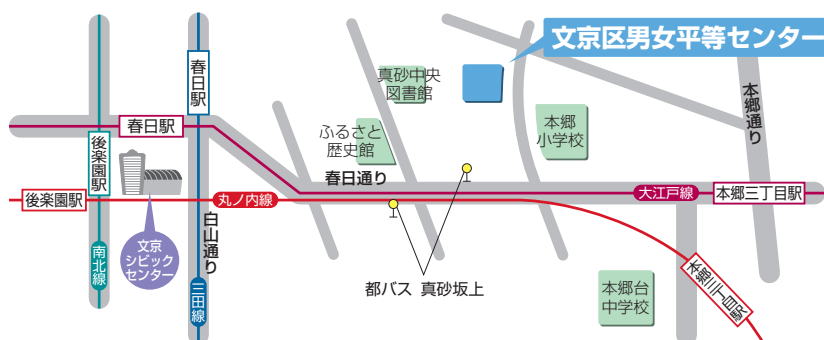
【参加しての感想】

◆金沢伝統芸能 金沢素囃子で全国からの参加者を歓迎、町なみ、空気、食文化で鋭気を養っていただきたと地元の皆さんの温かい真心に感動し、この大会の開催に当たり、2年間もの間、企画、準備を進めてこられたと伺い、時間、労力、苦勞に感謝の思いでいっぱいでした。分科会4の働き方に参加いたしました。日本のこれまでの労働環境を女性が変わえ、皆が幸せになれる働き方へ転換するために必要なことは、①まずはトップである経営者が変わる、②自分たちが明確なビジョンを持つこと、という内容でした。(土田千秋)

◆加賀百万石の城下町金沢での日本女性会議は、舞台いっばいに勢ぞろいした金沢素囃子(金沢無形文化財)から始まりました。分科会7のDV・ハラスメントでは自分を信じて生きるために声をあげた3人の勇気と強さに感涙し、また講演会では女性として男性主導の能楽界で能の道を歩み、伝統文化を守る大変さとそれに立ち向かわれた強さに感服しました。意識から変革と行動に移すためには相当な勇気と強さが必要、そして声をあげた人々を孤立させないために、私たちは傍観者ではないと感じた大会でした。(岡田伴子)

今後の予定

- ◆1月21日(月) 午後1時30分～3時 講師：瀬尾 かおりさん (文京区介護保険課長)
区政を知る懇談会「介護保険との上手な付き合い方」
- ◆1月28日(月) 午後1時30分～3時 講師：小園 弥生さん (男女共同参画センター横浜南館長)
プラスワンセミナーV「生きづらさ・働きづらさを希望に変える場づくり」
- ◆2月22日(金) 午後6時30分～8時 講師：井上 久美枝さん (連合総合男女・雇用平等局総合局長)
プラスワンセミナーVI「労働の場における男女平等～ハラスメントをめぐる国内外の状況～」



都営バス
真砂坂上下車 徒歩3分
三田線
春日駅下車 徒歩7分
大江戸線
本郷三丁目駅下車 徒歩5分
丸の内線
本郷三丁目駅下車 徒歩5分
南北線
後楽園駅下車 徒歩10分

お問い合わせ先

文京区男女平等センター 〒113-0033 文京区本郷4-8-3
TEL. 03-3814-6159/FAX. 03-5689-4534 <http://www.bunkyo-danjo.jp/>

編集後記

今号の特集記事は、文京区民への調査を実施してセンターまつりで展示した内容を抜粋したものです。みなさまが意外に思われる内容もあったかと思ひます。ぜひ多くのご感想、ご意見をお寄せくださいますよう、お願いいたします。
(広報部：田中・高橋・新島・根尾)